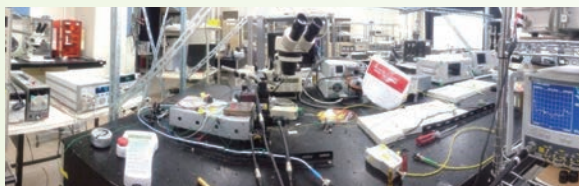


Hong BingZhou

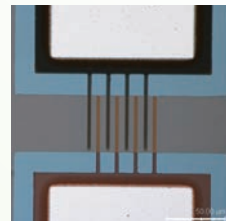
総合理工学府
量子プロセス理工学
一貫制博士1年(修士1年)

I come from China and came to Japan about one year ago. After coming here, I fell in love with this beautiful place soon. Now I'm working in Hamamoto laboratory of optical electronics science in Chikushi campus. My research topic is about semiconductor laser, something full of mystery but very interesting. The Green Asia Program is a quite good environment with different culture. People from Japan, Egypt, Bangladesh, Indonesia— Different culture are mixed here. One of my aiming is to be a coordinator of multi culture surrounding. Sustainable development and environment protecting, these are the two key words of Green Asia Program. Our destiny is to find the possibility of these two key words in our research. This should be and can be solved by our generation through Green Asia Program!



前蔵 貴行

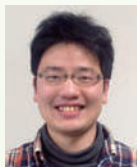
総合理工学府
量子プロセス理工学
一貫制博士1年(修士1年)



私は昨年の4月に総合理工学府量子プロセス理工学専攻に入学し、10月からグリーンアジア国際戦略プログラムのコース生となりました。

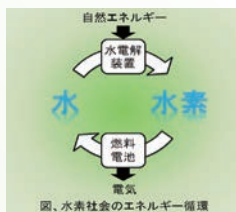
現在は所属する研究室にて、半導体デバイス間の光配線用受発光素子の開発について研究を行っています。この受発光素子が実用化されれば、今までのPCやスマートフォンに比べ、より軽量で動作の速いものができる可能性を持っています。所属する研究室ではクリーンルームや多数の成膜装置などを保有しており、デバイスを最初から最後まで全ての工程を自分でできるという点が非常に魅力的です。時には一日の大半をクリーンルームで過ごすこともあり、外が昼なのか夜なのかわからなくなるときもありますが、そんな経験も新鮮で毎日が充実しています。

私がグリーンアジア国際戦略プログラムに興味を持ったのは、ラボローテーションや海外インターンシップなど内容が充実していたからです。また、在籍している学生も日本人だけでなく様々な国の学生がいるため、ディスカッションの際も色々な意見が飛び交い、こういう考え方もあるのかと発見の多い有意義な時間を過ごすことができます。プログラムを終えたとき、入コースして良かったと言えるように常に視野を広く持ち、日々成長していきたいと思っています。



藤崎 貴也

総合理工学府
物質理工学
一貫制博士1年(修士1年)



水素をエネルギーとして利用することは、持続可能な社会に不可欠と私は考えています。電気の供給を水素に頼る社会を“水素社会”と称し、それを創る一員になることが私の夢です。これまで、我々の社会はいつ枯れるとも知れない化石燃料に依存し、大気汚染を始めた有害物質を排出し続けてきました。しかし、世界で無尽蔵に存在する水素を使うと、高いエネルギー効率で電気を作ることが出来、排出物は水だけという社会が実現します。

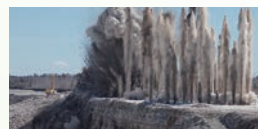
水素は無尽蔵に存在すると述べましたが、実は、水素はそれ単体で存在しておらず、多くは化合物として他の元素と結びついて存在しています。その代表例がH₂Oで表記される水です。私はその水から水素をいかに効率良く作れるか、という水電解の研究をしています。博士号を取得するころには、この研究で多くの研究者と議論ができるようになりたいと思っています。

私が本プログラムに参加した理由は、自身の視点を研究以外にも広めるためです。水素社会を本気で実現させるためには、社会の大勢の人たちと協力し合うことが必要不可欠であり、そのためにも専門分野以外の知識が必要と考えたからです。専門分野だけでなく、経済学、社会学を本プログラムによって学ぶことで、より自身の研究を世界に広めることが出来ると考えています。



高橋 良堯

工学府
地球資源システム工学
一貫制博士1年(修士1年)



昨年10月より、博士課程教育リーディングプログラム・グリーンアジア国際戦略プログラムのコース生となりました、工学府地球資源システム工学専攻所属の高橋良堯と申します。私は現在、所属する岩盤・開発機械システム工学研究室で露天掘り鉱山における発破に関する研究を行っています。発破は、鉱山分野にとどまらず、様々な分野で利用されている技術ですが、その特性上、周辺環境に与える影響が極めて大きく、発破が原因である事故が日本でも度々起きています。意外に思われる方も多いかもしれませんが、日本には石灰石鉱山をはじめとする鉱山が未だ存在しています。私の研究では、こういった問題を解決しつつ、鉱山操業の哲学ともいえる「低コスト・高利益」を達成するための発破制御システム開発に取り組んでいます。

日本には鉱山が存在するものの、その数は年々減少傾向にあり、日本の鉱山技術者の多くはその活躍拠点を海外へと移っています。そして、私も将来は海外で働きたいと考えています。海外で技術者として働く場合、英語力は言うまでもなく、周りの信頼を得るためには博士号も求められてきます。このプログラムの様々な授業・取り組みを通し、英語力だけではなく、通常の博士課程では得ることのできない文系的な視点も身に付けながら博士号を取得し、日本にとどまらず、世界で活躍できる人材になるべく努力していきたいと思っています。